

漢字を使へばなぜ頭が良くなるのか

その結果次のやうな理由があることを発見しました。

例へば、表音文字の「目」と「見る」とは、「め」と「みる」、「eye」と“look”といふ風に何の関係もありませんが、漢字では「見」は「目」といふ字を元にして作られてゐます。ですから、「目」を覚えた子供は「見」といふ字を見ると、「『目』で何かをすることだらう」とひとりでに考へます。その考へることが頭を使ふことであり智能を高めることになるのです。

足を使へば足が強くなるやうに、頭は使へば必ず良くなるものです。使はなければ絶対に良くなりません。漢字を使って教へれば、子供たちは自然と頭を使ふやうになります。だから頭が良くなるのです。

ヨーロッパの子供たちは表音文字を使ってゐますから、教はらない文字は自分では考へやうがありません。所が漢字の場合は、教はらない文字でも「何といふ字だらうか」と考へ、考へることによって頭を良くしてゐるのです。

所が最近、台湾の子供たちは日本の子供たちよりも智能指数が更に高いことが判りました。幼児期の漢字教育が、日本よりも徹底してゐるからです。しかも、日本では「耳」が付かない「声」を使ってゐますが、台湾では「聲」ですから良いわけです。

実は、日本の子供たちにも正字の「聲」を教へてみましたところ、子供たちは「『声』よりも『聲』の方が解り易い」と口を^{そろ}齊へて言ひました。

ですから、今のやうな略字体は作るべきではなかったのです。読むことについて言へば正字の方が読み易いのです。画数が多く複雑な漢字の方がむしろ特徴がはっきりしますから覚え易く、かつ読み易いのです。

ですから文字改革などは、すべきではなかったのです。もともと言葉や文字は約束事ですから、変へてはいけないものです。

文字は、現在の用をなすばかりではなく、過去と現在、現在と未来とのつながりを付けるものです。今書いたものが将来も役立つものであつて欲しいのです。ですから文字を変へてはいけません。

私はワープロの普及によって、現代人の漢字を書く能力が少々低くなってやむを得ないと思つてゐます。

例へば、交通手段が発達した今の世の中で、足が弱くなることはどうしようもないことです。昔の人はよく歩きましたから、当然足が強かった。それが今では、歩かなくなりましたから、どんどん退化してゐます。文明の利器が発達すれば、それを利用するのは当然でせう。

ですから、ふだんの生活の中で出来るだけ手足を使ふことが望ましいやうに、ふだんワープロを使ってゐる人でも、親友には手紙を肉筆で書くやうに努めることです。肉筆で書くことは、生活の中での潤ひにもなり、また書は芸術ですから、今後はそのやうな努力も必要だと思ひます。書は、私たちが絶対に失つてはならない大事な財産だと思ひます。